



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第11回例会(9月21日)
平成24年9月28日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)
FAX(653)5622
例 会 日 毎週金曜日12時30分~

会 長 藤村 文昭
幹 事 佐藤 重昭
会 報 福田 荘介
クラブ直通電話 TEL(653)5682

奉仕を通して平和を Peace Through Service..... RI会長 田中作次



ゲスト卓話

「気仙茶の再生について」

焙茶工房しゃおしゃん 店主
前田 千香子 様

前田さんは盛岡市のご出身。盛岡一高から東京大学文学部に進学。卒業後、岩手県庁に入庁し、海外派遣プログラムで、スコットランドのアバディーン大大学院に在籍しました。2000年に県庁を退職。中国や台湾でお茶の鑑定・焙煎を学び、2003年の帰国後、盛岡・材木町にお茶の店を開き、現在は聖石に移転してお茶の通信販売や予約制試飲サロンを開いています。お父様は元IBCアナウンサーの前田正二さんです。(阿部広会員)

きょうは気仙茶のお話をします。お茶というのはとても不思議な物で、なければならぬ物ではありませんが、一息つきたいときに飲みたくなるものだと思います。そうしたお茶が自分の畑から摘んで飲むことができれば、またそれが家族みんなで手作りのものであったとしたら。そうしたお茶がご先祖様や家族が植えた木だったとしたら、専門店やスーパーから買って来たお茶とは、まったく違う味わいを持っているのではないかと思います。

気仙茶は、多くが自家用として作られてきたものです。今はとても量の少ないお茶になっていますが、気仙のある一定の年代の皆さんにとっては摘んで作った・家族といっしょに飲んだ記憶が残っている茶葉です。そうした記憶は、は心の中に深く残っているものではないかと思っています。

希少な気仙茶と
心の震災復興

気仙茶は現在、大変な危機に見舞われています。震災以降、お茶を作ることができずにあります。もともと気仙茶は震災前も風前の灯とい

う状態でした。歴史はとても古いそうです。岩手の陸前高田を中心とした気仙地方のお茶を気仙茶と呼んでいます。300年ぐらいの歴史があるそうです。明治・大正にはずいぶん生産が増えたようで、昭和初期には輸出した形跡も残っています。戦時中、食糧増産のため、お茶の木がだいぶ抜かれてしまったようで、戦後は主に自家用茶として作られてきました。気仙地方の身の回りの物をすべて自給するサイクルの中で、時期的な暮らしや海の物との物々交換といったものの象徴のひとつではないかと思えます。

生産量からすると、昭和50年(1975)には年間20トンあったそうですが2009年のデータでは2トンになっています。それでもお茶を自家用として工場に持って行く人が80軒ぐらいあります。そういう地域は北の産地にはないことから「北限のお茶」と呼ばれることがあります。2トンという量は、静岡の大きな農家が作る50トンという量に比べると、非常に少ない。取るに足らないものかもしれませんが、気仙の人たちにとってお茶とは、自給してきた地域の暮らしの誇りに関わってくるものだと思います。

す。そういう気持ちで、今は気仙茶の再生に取り組んでいる気仙の方々が何人か、おられます。作業としては、以前と変わらないのですが、心の面で復興に関わってくるのではないかと思います。

気仙茶は震災後の一年以降、水が供給できないことがあり、工場が動かせませんでした。二年目は原発事故の影響もあり、放射物質の基準値を越えたところが出たので、県からの出荷自粛要請で二年続けて気仙茶を作ることができない状況になっています。存続の危機でしたが、気仙を愛する人たちは、自分のお茶の畑を持っている人はもちろん、そうではない人も含めた20人ぐらいが集まって「気仙茶の会」ということで、ご先祖様たちが護ってきたお茶を自分たちの次の世代に伝えていく活動を始めたところでした。

気仙茶の再生は、お茶の木の再生でもありますが、地域の繋がりを再生していく過程でもあると考えています。気仙にはいろいろな業種がありますが、実家でお茶の木を栽培している人は業種を越えていろいろいます。世代間の繋がりで、今の人がお年寄りからお茶について聞くこともあります。そうしたことから、未来に向けて繋がりを回復していくような過程だと思っています。経済的な復興ではありませんが、心の復興としては、とても重要な取り組みではないかと思っています。私自身は中国のお茶がとても好きになって、お茶を仕事にし始めて十年が経ちます。お茶に出会ったことは、この気仙茶の取り組みをするためだったのかと思っています。ボランティアで毎週、気仙方面に出かけている状況です。

地域全体で取り組みたい 気仙茶に関わる現状

2010年に茶葉を摘んだときの話です。普通の畑とは違うのでわかりにくいのですが、気仙のお茶の多くは「ケイハンチャ」といわれています。傾斜地に食料となる物の畑のほかにお茶を植え、土嚢の役割を果たさせるということで、一年に一度、茶葉を摘んで自分の家のお茶を作るという訳です。日本のお茶の9割方は新しく改良した「ヤブキタ」などですが、気仙茶の木は日本で1割ほどを占める在来品種で、木自体も古い。日本では二十年、三十年で植え替えをしていくのが常識になっていますが、このお茶の木は大体百年を越えています。お茶の木が古かったり、品種が違うと味わいも違います。香りが良いお茶になります。

今年、出荷自粛を受けて気仙地域全体でお茶のことを考えていかなければならない状況になりました。陸前高田のほうにお茶の工場が1軒ありますが、ここに各家からお茶の葉が入ってきます。大体20キロまとめて工場に入りますが、「5キロしか摘めなかった」という方もある。その5キロが放射能に汚染されている場合、機械に放射能が残ってしまうことになり、地域全体で取り組んでいくことになるのです。そういうことで地域の皆さんに「全体で取り組もう」と呼び掛けをするため、まずはネットワーク作りということで「気仙茶の会」を立ち上げたとき、記念講演として静岡からお茶の専門家にお話をいただきました。その先生がおっしゃったのは「気仙のお茶の木は、非常に元気で健康である」とのことでした。気仙では木に肥料をやらず、そのまま出てきた葉っぱを摘むということで量が取れないのですが、お茶の木自体は元気で長生きしています。薬も使

わないのですが、北にあるため虫の害があまりないことも理由でしょう。お茶の木自体の健康性もあって、薬を使わなくていいことに関係があると思います。

地域の生産者が集まり、除染のための剪定講習会も開きました。剪定する場所にあるお茶の木は二百年以上前に植えたそうです。これだけお茶の木がまとまってあるのは、日本全国で見ても珍しいようで、「あまり見たことがない」と皆さんにいられます。また、この地域に今、残っている中でもっとも古い部類に入ってお茶の木もあります。一列に植えられていて、トータルで300メートルぐらいある畑です。普通の産地で使っているようなお茶刈り機を改造して対応できるようにしています。

お茶に付着した放射能が高めに検出されてしまうのは、常緑樹のために震災当時は葉っぱがあったことが理由にあります。葉っぱの部分に放射性物質が多く存在しているということで、葉っぱを落とす除染活動を行っていて、国際ボランティアワークキャンプの方たちも手伝ってくれました。

気仙茶の会のもうひとつの活動として、地域のお年寄りから、気仙茶との関わりを聞いて、聞き書き集を作ろうとの取り組みがあります。現在、80歳を少し超えた方から聞くところに

よると、20年以上前に中学校教師として手作りのお茶を作り始めた。当時、行った作り方は40年ぶりだったそうで、その頃のお年寄りから話を聞いたとのことでした。

気仙のお茶で紅茶を作ってみようというグループもあります。放射能の基準値を大幅に下回っているお茶の葉を使い、今年は手作りで紅茶を作っています。販売よりも、自分の家のお茶の木の葉っぱを使って紅茶を作ることで木を護っていこうという運動です。

陸前高田には、津波に見舞われたお茶の木もあります。ほとんど枯れてしまいましたが、根元から小さな芽が伸びていたので、根は死んでいないことがわかりました。生きている新しいお茶の芽に肥料を与えて、この木を再生しようと取り組んでいます。

お茶の木を再生することが地域で、どのような意味合いを持っているのか。あるお茶の木を持っている方はご家族のほとんどを亡くされて、木に手を入れることはとてもできないと聞いていますが、「木が育つことで何か良い方向になってくれるといいなあ」と祈るような気持ちで作業を行っているところです。もし可能でしたら、皆さんにもご支援をいただきたいと思っています。

山田・大槌ロータリークラブ訪問



9月18日(火)、藤村会長、田中復興支援委員長、佐藤幹事と副幹事樋山の計4名で山田・大槌の両クラブへ当クラブとしての復興支援のご相談の為、訪問いたしました。

大槌クラブは、例会開催もままならない状態との事であり具体的進展はございませんでしたが、山田クラブからは具体的な支援の提示があり、翌日19日(水)開催の当クラブ「復興支援特別委員会」にて協議いたしました。後日、理事会等に諮り進めてまいります。

(樋山桂 記)

中田ガバナー補佐杯盛岡市内8クラブ合同コンペ 開催

9月22日(土)、安比高原ゴルフクラブにて「中田ガバナー補佐杯盛岡市内8クラブ合同コンペ」が開催されました。

当クラブからは、藤村会長以下11名が参加し、参加51名中、上位10位以内は、藤村会長5位、古山会員9位でありました。また、その他メンバーの大いなる健闘の結果、団体では8クラブ中、惜しくも3位入賞となり、

次回当クラブの優勝をメンバー全員にて誓いました。

- [団体] 優勝：盛岡南クラブ
- 2位：盛岡中央クラブ
- 3位：盛岡クラブ

[個人] 優勝：高橋貞雄(盛岡南) 36・36 = 72
(樋山桂 記)

例会報告

第11回例会
平成24年9月21日(金)

- 於 川徳 12時30分 開会点鐘
- ・司会 長澤 茂副会長
- ・ソング それでこそロータリー
- ・ゲスト 前田千香子様(焙茶工房しゃおしゃん主宰)。
- ・会長報告 長澤 茂副会長
- ・幹事報告 佐藤重昭幹事

【ニコニコBOX】

- ◆勝部民男君…前田さん卓話有難うございます。前田さんには20年来

のご交宜を頂いていますが、常に前向きで、しかもたおやか、しなやかな生き方に敬服します。益々のご発展をお祈りします。

- ◆吉田幸一君…9月12日八幡平カントリークラブでホールインワンをやってしまいました。一瞬「入るな」と念じましたが無情にも入ってしまいました。同伴者は矢後会員です。いずれ分かることなのでお知らせいたします。
- ◆近藤 駿君…仏壇の整理をしていたら大正元年の岩手日報が出ました。私の祖父が眼科を開業した宣伝が載っていました。9月15日でした。丁度100年前になります。私で3代目ですが3代目は家

を潰すと言われていたがなんとなくそうなりそうです。家そのものは潰れないのですが眼科が途絶えそうです。孫に期待して後20年頑張らなければと思っております。取りあえず100年続いたことに感謝し、これからも皆様のご鞭撻よろしくお願いします。

- メイクアップ
地区=大山君。盛岡北R.C.=嘉本、佐藤(義)君。盛岡東R.C.=吉田(幸)君。盛岡中央R.C.=民部田・市丸君。クラブ委員会=古山・平野・岩野・菊池君。

出席報告 □ 会員数 /62 名 □ 出席数 /39 名 □ 出席率 /69.64% □ 前回修正出席率 /85.19%

- ・ 9月28日(金) ゲスト卓話 細川克也氏(岩手日報社 報道部次長)
「ロンドン五輪を取材して」
- ・ 10月 5日(金) 新入会員卓話 大見山俊雄会員
「保存復原事業としての東京ステーションホテル」

プログラムの
お知らせ

- 本号編集担当 / 福田 荘介
- 次号編集担当 / 福田 泰司